

令和4年3月22日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：斉藤、手嶋、今野、柏瀬

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

113号

3月の月例会について

3月の月例会には、白樺文学館の稲村さんより3月1日(火)から9月25日(日)開催している常設テーマ「民藝運動と我孫子」の展示解説がありました。

常設テーマ展

「民藝運動と我孫子」

○概要

会期 令和4年9月25日(日)まで

白樺文学館では、特別展と常設テーマ展を交互に展示しています。今回の展示は常設テーマの「民藝運動と我孫子」になります。もともと白樺文学館で持っていたコレクションと山田家コレクション(山田家は志賀直哉の娘の嫁ぎ先)のなかから、民藝に関する資料を中心に展示しています。

○白樺文学館コレクションから

バーナード・リーチは柳の住まいであった三樹荘に窯をつくり、陶芸活動をしていました。彼が我孫子で作った作品は日本民藝館などで所蔵されています。

バーナード・リーチは我孫子を離れた後、イギリスに戻り、リーチ・ポタリーをひらき、イギリスで活動しながら、何度も来日し、東洋と西洋の文化の懸け橋となりました。

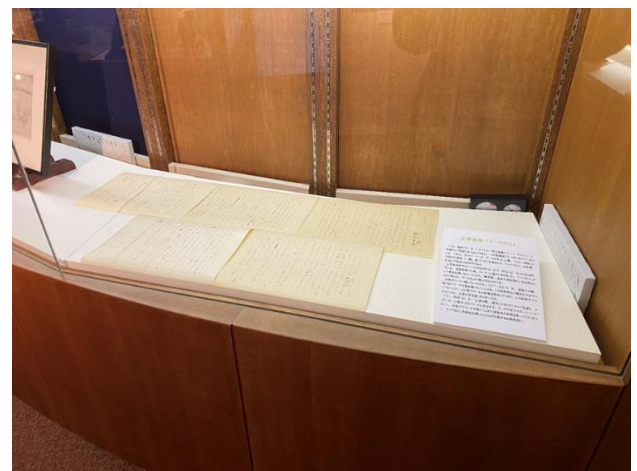
展示している作品は、我孫子でリーチが作った作品ではありませんが、リーチの代表的なデザインのもので



バーナード・リーチは陶芸家というだけではなく、白樺派の人々と交流し、本のデザインもかかわっています。今回は志賀直哉の本の表紙絵を展示しています。



またバーナード・リーチと志賀直哉、二人の関係がうかがえる資料として、志賀直哉の原稿「リーチのこと」です。原稿では志賀がリーチと親しくなったのは、1917(大正6)年、我孫子の柳宅の庭にリーチが窯を築いたことによるものであり、この窯を尋ねて濱田庄司がやってくるのだが、この翌日リーチの窯場は焼失してしまう様子が描かれています。



あわせて、焼けてしまったリーチの作業場のジオラマも置いてあります。リーチが設計した作業場から、西洋から見た東洋の美を発見できるかもしれません。

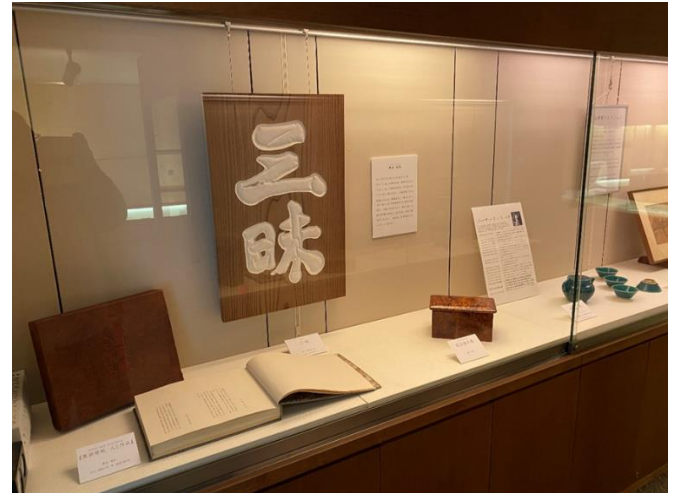


そのほかにもリーチと縁が深く、リーチがイギリスでポタリーを作る際、協力した濱田庄司の作品、民藝運動に参加した棟方志功、富本憲吉、河井寛次郎などの作品を展示しています。



今回稲村さんが一押しなのは黒田辰秋の作品です。彼は主に漆芸、木工を専門に民藝活動を行っていました。そのため、日本民藝館の展示ケースも彼の作品が使われています。展示品を収蔵するケースが民藝作品という、日本民藝館ならではのスケールに驚きます。

彼の作品は、志賀直哉たち白樺派はもちろん、川端康成や映画監督の黒澤明や多くの著名人に愛されています。



○山田家コレクションから

山田家コレクションには、リーチが描いた絵と、陶芸作品が出品されています。残念ながら我孫子を描いた作品ではありませんが、リーチが見た日本の風景が描かれています。



事務局より

3月22日(火)からまん延防止等重点措置が解除されるため、3月22日(火)から、旧村川別荘新館でのガイド活動を再開します！

月例会も予定どおり行いますので、よろしければご参加ください。

今回のおたよりに5月26日(木)に研修会の参加票を同封いたしました。次の月例会もしくは4月8日(金)までに事務局にお知らせください。

次回の月例会は4月6日(水)教育委員会大会議室で午前9時30分から行います。

よろしく願い申し上げます。